



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月30日

上場会社名 株式会社 オートバックスセブン 上場取引所 東
コード番号 9832 URL <https://www.autobacs.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長 (氏名) 堀井 勇吾
問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 大木 勝仁 TEL 03-6219-8787
配当支払開始予定日 一
決算補足説明資料作成の有無： 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	211,961	12.6	12,449	25.2	13,421	24.6	8,716	14.1
2025年3月期第3四半期	188,216	4.8	9,945	10.6	10,769	15.7	7,639	△16.1

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 9,973百万円 (28.6%) 2025年3月期第3四半期 7,753百万円 (△13.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	111.02	—
	97.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	269,677	137,430	50.8	1,745.36
2025年3月期	228,170	131,963	57.8	1,679.29

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 137,062百万円 2025年3月期 131,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2026年3月期(予想)	—	30.00	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

新規 一社 (社名) 一、除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	82,050,105株	2025年3月期	82,050,105株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	3,520,708株	2025年3月期	3,559,799株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	78,512,147株	2025年3月期3Q	78,207,187株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、景気は緩やかな回復基調を維持しております。他方、物価上昇の継続による個人消費への影響懸念に加え、各国の通商政策や地政学リスクの高まり、為替・金利の変動等の不確実要因により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

国内の自動車関連業界の動向といたしましては、出荷停止していた一部自動車メーカーの出荷再開に伴い、新車販売台数は前年を上回りました。中古車市場においては、中古車オークション相場の高騰による仕入れ難が発生するも、中古車需要は底堅く推移し、中古車登録台数は前年同水準となりました。

このような環境下において、当社グループは、お客様にとっての「モビリティライフのインフラ」をグローバルで目指し、2024中期経営計画に基づき、「タッチポイントの創出」「商品・ソリューションの開発と供給」「新たな事業ドメインの設定」を戦略骨子とした各種施策を推進しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,119億61百万円（前年同期比12.6%増加）、売上総利益756億78百万円（同14.8%増加）、販売費及び一般管理費632億28百万円（同13.0%増加）、営業利益124億49百万円（同25.2%増加）、経常利益134億21百万円（同24.6%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益87億16百万円（同14.1%増加）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[オートバックス事業]

オートバックス事業の売上高は1,577億91百万円（前年同期比4.7%増加）、セグメント利益は177億87百万円（同5.0%増加）となりました。

国内においては、国内オートバックスチェン（フランチャイズ加盟店舗を含む）の全業態の売上高は、前年同期比で既存店が2.2%の増加、全店が3.3%の増加となりました。

国内オートバックスチェンでは、冬タイヤやタイヤチェーン等の冬季用品が低調となった一方で、夏タイヤは専売タイヤの拡販や高付加価値タイヤのラインアップ拡充等が奏功し、好調に推移いたしました。また、車両メンテナンス需要を背景に、オイル・バッテリー等のメンテナンス関連商品が堅調に推移いたしました。さらに、アプリ・WEBからのピット作業予約機能の改善や量り売りオイルのラインアップ拡充を実施いたしました。

車検・整備については、リピート率向上に向けた取り組み等が奏功し、車検実施台数は前年同期比4.1%増加の約49万3千台となりました。

車販売については、新車販売が低調も、中古車販売が好調に推移し、国内オートバックスチェンにおける総販売台数は前年同期比1.1%増加の約22千3百台、総販売金額は前年同期比1.7%増加の273億22百万円となりました。また、他社との協業等により在庫車両の拡充に取り組み、より多彩な車種・価格帯から提案できる体制を整備いたしました。

国内における出退店は、2025年3月末の1,020店舗から、新規出店が37店舗、退店が2店舗あり、2025年12月末は1,055店舗となりました。

海外においては、フランスは、商品ラインアップの拡充等を行ったものの、景気低迷の影響を受け、売上が減少いたしました。シンガポールは、車両メンテナンス需要を背景にピットサービスが好調で、売上が増加いたしました。また、マレーシアにおいては、オートバックスライセンス店舗（4店舗）の運営事業から2026年3月末をもって撤退し、卸売事業に注力することを決定いたしました。

海外における出退店は、2025年3月末の148店舗から、新規出店が5店舗、退店が1店舗あり、2025年12月末は152店舗となりました。

[コンシューマ事業]

コンシューマ事業においては、2024年8月にオトロンカーズ株式会社、2024年10月に株式会社東葛ホールディングス、2025年1月に株式会社ビーラインを連結子会社化したことにより、売上・利益ともに大幅に伸長いたしました。

この結果、コンシューマ事業における売上高は385億43百万円（前年同期比92.5%増加）、セグメント利益は5億67百万円（前年同期は8億27百万円のセグメント損失）となりました。

ディーラーにおいては、BYDの新型車投入等により売上が増加いたしました。また、2025年12月には、BYD正規ディーラー「BYD AUTO 東京ベイ東雲」をオープンいたしました。

オンラインストアにおいては、自社ECサイトが好調に推移したことに加え、外部ECモールにおける販売促進施策が奏功し、売上が伸長いたしました。また、2025年8月より、自社ECサイトでも楽天ポイントが付与される「楽天ポイント」オンラインを導入し、利用者の利便性向上を図りました。

AUTO INにおいては、2025年4月に、全国70拠点のホームセンター等でカー用品販売および自動車整備事業を展開する株式会社ジェー・シー・エーを連結子会社化いたしました。さらに同年10月には、ホームセンター事業を展開する株式会社アヤハディオより、ホームセンター4店舗におけるタイヤ、オイル、バッテリー等の販売事業および車検・整備事業を譲り受け、これら店舗の屋号を「AUTO IN」として運営を開始いたしました。

コンシューマ事業における出退店は、2025年3月末の124店舗から、新規出店が80店舗、退店が6店舗あり、2025年12月末は198店舗となりました。

[ホールセール事業]

ホールセール事業における売上高は258億70百万円（前年同期比5.0%減少）、セグメント利益は8億83百万円（同84.5%増加）となりました。

国内においては、日産自動車への卸売が減少した一方で、セブン-イレブンへの卸売が拡大いたしました。また、アルミホイールの製造・販売等を行う子会社は、冬タイヤ向けホイールの販売が低調に推移いたしました。

海外においては、新規顧客獲得に向けた各種施策を実施したものの、日本からの輸出が減少し、売上は減少いたしました。中国においては、新商品開発の推進により日本国内への輸出が拡大し、売上が伸長いたしました。オーストラリアにおいては、インフレや金利上昇を背景とした消費者の購買意欲の低下傾向が継続したものの、PB商品の販売が好調で、売上は前年同水準となりました。

[拡張事業]

拡張事業における売上高は79億93百万円（前年同期比16.1%増加）、セグメント利益は6億96百万円（同70.6%増加）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

財政状態は、次のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ415億7百万円増加し、2,696億77百万円となりました。主に現金及び預金が減少した一方、受取手形及び売掛金、商品および未収入金が増加したことなどによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ360億40百万円増加し、1,322億46百万円となりました。主に短期借入金が減少した一方、支払手形及び買掛金および長期借入金が増加したことなどによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ54億66百万円増加し、1,374億30百万円となりました。主に利益剰余金の配当などによる減少があった一方、親会社株主に帰属する四半期純利益による増加があったためです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	31,292	30,727
受取手形及び売掛金	29,602	43,178
商品	27,649	31,083
未収入金	27,902	36,300
その他	10,646	14,099
貸倒引当金	△64	△80
流动資産合計	127,028	155,308
固定資産		
有形固定資産		
土地	29,421	31,239
その他（純額）	27,336	34,022
有形固定資産合計	56,757	65,262
無形固定資産		
のれん	8,694	8,389
その他	8,676	8,519
無形固定資産合計	17,370	16,908
投資その他の資産		
差入保証金	11,998	12,876
その他	15,044	19,348
貸倒引当金	△28	△27
投資その他の資産合計	27,014	32,197
固定資産合計	101,142	114,368
資産合計	228,170	269,677
负债の部		
流动負債		
支払手形及び買掛金	16,157	37,563
短期借入金	8,514	7,056
未払金	18,015	22,196
未払法人税等	2,781	3,409
その他	12,963	17,497
流动負債合計	58,432	87,723
固定負債		
社債	200	200
長期借入金	26,263	33,072
引当金	7	8
退職給付に係る負債	266	286
資産除去債務	3,398	3,589
その他	7,638	7,366
固定負債合計	37,774	44,523
負債合計	96,206	132,246

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,998	33,998
資本剰余金	34,138	34,092
利益剰余金	66,246	70,240
自己株式	△6,060	△5,988
株主資本合計	128,323	132,343
その他包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,736	2,345
為替換算調整勘定	1,748	2,373
その他包括利益累計額合計	3,484	4,718
非支配株主持分	155	368
純資産合計	131,963	137,430
負債純資産合計	228,170	269,677

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	188,216	211,961
売上原価	122,318	136,283
売上総利益	65,897	75,678
販売費及び一般管理費	55,952	63,228
営業利益	9,945	12,449
営業外収益		
受取利息	84	65
受取配当金	133	123
持分法による投資利益	612	449
情報機器賃貸料	471	239
その他	771	1,141
営業外収益合計	2,074	2,019
営業外費用		
支払利息	95	294
情報機器賃貸費用	611	305
固定資産除却損	39	45
その他	503	401
営業外費用合計	1,249	1,046
経常利益	10,769	13,421
特別利益		
負ののれん発生益	1,030	—
特別利益合計	1,030	—
特別損失		
減損損失	74	—
段階取得に係る差損	132	—
特別損失合計	207	—
税金等調整前四半期純利益	11,592	13,421
法人税、住民税及び事業税	3,117	5,214
法人税等調整額	811	△522
法人税等合計	3,929	4,691
四半期純利益	7,663	8,730
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,639	8,716
非支配株主に帰属する四半期純利益	23	14
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△126	617
為替換算調整勘定	150	375
持分法適用会社に対する持分相当額	66	250
その他の包括利益合計	90	1,243
四半期包括利益	7,753	9,973
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,729	9,949
非支配株主に係る四半期包括利益	24	23

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	オートバッ クス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	146,797	19,865	18,579	1,101	186,343	—	186,343
その他の収益	—	—	—	1,873	1,873	—	1,873
外部顧客への売上高	146,797	19,865	18,579	2,974	188,216	—	188,216
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,904	153	8,656	3,907	16,622	△16,622	—
計	150,702	20,018	27,235	6,882	204,839	△16,622	188,216
セグメント利益又は損失(△)	16,944	△827	478	408	17,003	△7,058	9,945

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△7,058百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレートの一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、オトロンカーズ株式会社およびPCTホールディングス株式会社の株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、それぞれ2,127百万円、785百万円であります。

(負ののれん発生益)

「オートバックス事業」セグメントにおいて、持分法適用関連会社であった株式会社ピューマの株式を追加取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間において461百万円であります。

「コンシューマ事業」セグメントにおいて、株式会社東葛ホールディングスの株式を新たに取得したことにより、連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間において568百万円であります。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益又は損失(△)には含まれておりません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注2)
	オートバッ クス事業	コンシュー マ事業	ホールセー ル事業	拡張事業	合計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	152,109	38,381	17,935	1,758	210,184	—	210,184
その他の収益	—	—	—	1,777	1,777	—	1,777
外部顧客への売上高	152,109	38,381	17,935	3,535	211,961	—	211,961
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,682	162	7,935	4,457	18,237	△18,237	—
計	157,791	38,543	25,870	7,993	230,199	△18,237	211,961
セグメント利益	17,787	567	883	696	19,934	△7,484	12,449

(注) 1. セグメント利益の調整額△7,484百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主にコーポレートの一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	4,158百万円	4,642百万円
のれんの償却額	256	670